

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月27日

【評価実施概要】

事業所番号	870101789		
法人名	ホシサン工業株式会社		
事業所名	グループホーム すばる		
所在地	水戸市東野町字東山96-5 (電話) 029-246-1105		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年12月18日	評価確定日	平成20年6月27日

【情報提供票より】 (平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月21日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27人	常勤	17人, 非常勤 5人, 常勤換算 20.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての ~ 全階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	(実費) 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(平成19年11月1日現在)

利用者人数	19名	男性 3名	女性 16名
要介護1	1	要介護2	7
要介護3	4	要介護4	6
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 84.8 歳	最低 65 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大橋病院 古木歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は認知症ケアに対する思いである「命ある限り、社会人」を理念に掲げ、すべての人が地域と共に潤いのある社会の一員として生活していけるよう、管理者や職員に理解と周知を図るとともに、利用者主体の尊厳あるケアを実践している。
利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、定期的なケアカンファレンスにより、介護計画書の作成や評価・見直しなど、一連のプロセスを継続的に行っている。
職員は共に暮らす人と人のふれあいを大切にするとともに、利用者一人ひとりの希望にそった支援に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>利用者の権利・義務を契約書に明示するとともに、市のグループホーム連絡協議会に参加するなど市との連携を図っている。 地域とホームとの交流など、改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を職員に周知するとともに、課題の改善について話し合い、利用者の権利や義務の明示、市の連絡協議会の加入、地域の方々との交流する場を設けるなど課題の改善に取り組んでいる。 自己評価はユニット毎に管理者が、職員の意見を聴取して作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者の家族、市の職員・地域の方々・ホームの職員を構成員とする第1回運営推進会議を開催し、趣旨説明・自己紹介・現状と今後の運営企画・意見交換を行っているが、定期的に開催していないので、運営推進会議の意義や役割等の理解に努め、定期的に開催することを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>広報誌「すばる」にホームのできごとや職員紹介等を掲載し、家族に送付している。 また、家族の面会時に利用者の日々の様子を伝えるとともに、金銭管理の状況を毎月報告している。 ホームの相談窓口、担当者・外部相談員を明確にし、玄関に目安箱を設置している。 定期的に開催している食事会に家族の参加を呼びかけるとともに、意見や要望等を聞いている。 また、出された意見や苦情を真摯に受け止めサービスや運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>応接ホールや談話室を地域の方々を利用できるよう開放している。 広報誌を地域へ配布するとともに、地域行事の参加に努めているが、積極的な交流を図るまでには至っていないのでボランティアや体験学習の受け入れをはじめ、ホームの行事に地域の方々を招待するなど、地域交流を深める取り組みを期待する。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いのちある限り、社会人」を理念に掲げ、すべての人が地域と共に潤いのある社会の一員として生活していけるよう、日々実現に向けて努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者は職員採用時にホームの理念を伝えるとともに、ユニット会議で利用者主体の尊厳ある生活が送れるよう話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	応接ホールや談話室を地域の方々が利用できるよう開放している。 広報誌を地域へ配布するとともに、地域行事の参加に努めているが、積極的な交流を図るまでには至っていない。	○	ボランティアや体験学習の受け入れをはじめ、ホームの行事に地域の方々を招待するなど、地域交流を深める取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員に周知するとともに、課題の改善について話し合い、利用者の権利や義務の明示、市の連絡協議会の加入、地域の方々との交流する場を設けるなど課題の改善に取り組んでいる。 自己評価はユニット毎に管理者が、職員の意見を聴取し作成している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族・市の職員・地域の方々・ホームの職員を構成員とする第1回運営推進会議を開催し、趣旨説明・自己紹介・現状と今後の運営企画・意見交換を行っているが、定期的に開催していない。	○	運営推進会議の意義や役割等の理解に努め、定期的を開催することを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を受け入れるほか、市のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換や相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌「すばる」にホームのできごとや職員紹介等を掲載し、家族に送付している。 また、家族の面会時に利用者の日々の様子を伝えるとともに、金銭管理の状況を毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの相談窓口・担当者・外部相談員を明確にし、玄関に目安箱を設置している。 定期的に開催している食事会に家族の参加を呼びかけるとともに、意見や要望等を聞いている。 また、出された意見や苦情を真摯に受け止め、サービスや運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間で交流を図り、利用者と職員が馴染みの関係となるよう配慮している。 離職した職員が、ホームに遊びに来るなど関わりを大切にしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネジャーによる新採時研修は実施しているが、その後は自主的な研修参加となっており、職員育成に取り組むまでに至っていない。	○	職員一人ひとりのスキルアップを図るため、段階に応じた研修を受講できる体制づくりを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県認知症高齢者グループホーム協議会や市内の連絡会に加入している。 他のホームや近隣のグループホームとの交流は、運営者や一部の職員の個人的交流にとどまっている。	○	他のグループホームとの交流を通して事業者同士の協働により、サービスの質の向上や職員育成に役立つよう、連携を図る取り組みを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や在宅訪問・体験入居等により、馴染みの関係を築きながら利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の知恵を大切に、利用者から得意なことを学んだりするなど、共に支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から生活歴や意向を聴取するとともに、月1回のケアカンファレンスで思いや気付きを話し合い、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を取り入れ、アセスメントに基づいた利用者主体の介護計画書を作成している。 また、家族を交えて話し合い、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスで介護計画が現状に即しているか話し合い、心身状態の変化時や期間に応じた評価・見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容院の送迎や付き添い・通院介助・家族の宿泊支援等、利用者等の要望に応じた柔軟な支援に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族と話し合い、意向にそってかかりつけ医の受診が継続して受けられるよう支援している。 また、認知症疾患センターの医師と連携し、相談できる体制を確立している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に応じて利用者や家族と話し合い、意志を確認するとともに、主治医と相談しているが、重度化や終末期の方針を統一するまでには至っていない。	○	利用者・家族の意向を踏まえ、重度化に伴う意志確認書を作成するなど、支援体制を確立するとともに、重度化や終末期のケアに関するマニュアルの作成を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに優しく・さりげなく接し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。 個人情報についても秘密保持の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を聞き、買い物や散歩など利用者の思いや希望にそって支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に配慮した献立を取り入れ、食事の準備や片付けなど一緒に行っている。 利用者と職員がそれぞれの食卓を囲み、楽しく食事ができるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の生活習慣や希望に合わせ、好みの時間に入浴することはもちろん、毎日でも入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	梅干作りや糠づけなど利用者の経験や知恵を発揮してもらったり、水汲みなどのできそうなことをお願いしている。 季節の行事や家族を交えての食事会など、楽しみのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にそって、散歩や買い物・外食に出かけている。 また、ドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある利用者には、携帯電話を所持することで所在が確認できるようになっている。 外出しそうなときには止めることなく見守るなど、職員間で連携を図り安全面に配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力による避難訓練を年2回実施し、実施する際は近隣へ挨拶をしている。	○	地域資源・地域防災対策の把握に努め、運営推進会議等を通して、地域住民の協力体制を確立するとともに、災害対策マニュアルの作成を提案する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師による栄養バランスに配慮した献立となっており、利用者の嗜好を食生活に取り入れている。 摂取状況をチェック表に記録し、利用者一人ひとりの栄養・水分摂取量を把握している。	○	定期的に、栄養の専門的な観点から、栄養士にチェックしてもらう等の取り組みを提案する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掘りごたつのある和室やホール兼食堂は、利用者が寛げるよう、ゆったりとしたスペースとなっている。 落ち着いた和の雰囲気があり、心地よい日射しを取り入れた空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアには和服の布が施してあり、使い慣れた物品の持ち込みや写真・鉢植えを飾るなど、安らぎのある環境づくりに配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。